

ロゴマーク

日本経済新聞「交遊抄」欄、2007年3月22日朝刊

「オー・ワンダフル」。外国人に名刺を渡すと、みな一様に感嘆の声を上げる。私がリーダーとなり、年金や医療などの世代間問題を研究するプロジェクトの名刺には、大きなロゴマークが入っているからだ。

黒地に浮かび上がる白い球と、鮮やかな朱色の文字を配したマークをデザインしたのは、松本深志高校の同期生で、長野県短期大学の教授を務める小林亮介氏である。

芸術家を目指していた彼と、経済学を志していた私は、高校時代それほど交流があったわけではない。親しく付き合い出すようになったのは30年ほど前。彼の彫刻が二科展で賞を受け、その展覧会に招かれてからだ。

一目で彼の物とわかる個性的な作品は高い天分と深い教養を感じさせた。気品あふれる彼の彫刻を前にすると、研ぎ澄まされたみずみずしい感性に今でも圧倒される。

人柄も誠実で穏やか。感性が鋭いだけに他人への気配りも細やかだ。そんな彼のデザインは好評で、名刺交換の後、マークの話で盛り上がることも多い。そのおかげか研究者のネットワークは内外に大きく広がった。頭が下がる思いでいっぱいである。

時間が自由にとれず、なかなか会えないが、工房のある信州・安曇野をいつか訪れたいと思っている。

